

# 富山市日本海文化研究所11－20年間の活動記録

## 1. 日本海文化を考えるゼミナール公開講演会

◎平成8年度

(1) 5月25日 「加賀藩の海運」

当所所員・富山県古文書研究会会長 高瀬 保

(2) 7月19日 「地中海世界とポンペイ」

同志社大学名誉教授 浅香 正

(3) 10月25日 「よみがえった日本古代織物『倭文(しどり)』」

当所所長 布目 順郎

(4) 1月24日 「縄文の大集落・三内丸山遺跡」

青森県三内丸山遺跡対策室総括主査 岡田 康博

◎平成9年度

(1) 5月31日 「古代日本海域の物流」

富山大学教授 宇野 降夫

(2) 11月22日 「北前船の実像」

神戸商船大学名誉教授 松木 哲

◎平成10年度

(1) 5月23日 「日本海域の魚食文化」

当所研究員・富山県日本海ミュージアム推進班主任 森 俊

(2) 12月5日 「渡来系弥生人の原郷を尋ねて」

国立科学博物館名誉館員 山口 敏

◎平成11年度

(1) 4月29日 「縄文人の食文化」

名古屋大学教授 渡辺 誠

(2) 12月22日 「古代出雲的世界と越」

駒沢大学文学部助教授 瀧音 能之

◎平成12年度

(1) 6月3日 「古代の北陸道」

古代交通学会会長 木下 良

(2) 11月18日 「戦国期越中の公権と地域権力をめぐって」

当所研究員・富山県公文書館主任 高森 邦男

◎平成13年度

(1) 5月19日 「日本海型方言分布の背景」

大阪大学大学院教授 真田 信治

(2) 11月17日 「古代北陸道の津・駅・村・渤海使の往来した時代」

金沢星陵大学教授 藤井 一二

◎平成14年度

(1) 12月7日 「渤海遺跡紀行」

富山大学名誉教授 小谷 仲男

## 2. 日本海文化を考えるゼミナール学習会

◎平成8年度

(前期5回)

・メインテーマ：「越中の祭りと文化」

・講師 当所研究員・富山県[立山博物館]学芸課長

米原 寛

(後期5回)

・メインテーマ：「富山でござる－江戸期の富山庶民－」

・講師 当所研究員・富山県公文書館資料課長 新田 二郎

◎平成9年度

・メインテーマ：「富山県の成立」(年間5回)

・講師 当所研究員・富山県日中友好協会理事長 栗三 直隆

◎平成10年度

・メインテーマ：「富山県民俗の位相」(年間5回)

・講師 当所所員・富山県文化財保護審議会会長 佐伯 安一

◎平成11年度

・メインテーマ：「富山－それぞれの中世－」(年間5回)

・講師 当所所員・富山大学非常勤講師 久保 尚文

◎平成12年度

・メインテーマ：「日本海沿岸の縄文文化」(年間5回)

・講師 当所所員・金沢美術工芸大学教授 小島 俊彰

◎平成13年度

・メインテーマ：「埋もれていた北陸中近世の生活文化」(年間5回)

・講師 富山県埋蔵文化財センター副主幹・調査課長 宮田 進一

◎平成14年度～16年度

・メインテーマ：「中世岩瀬湊を探る」(3年間40回)

・講師 当所事務局・富山市教委埋蔵文化財センター専門学芸員 古川 知明

当所事務局・富山市葦牛人記念美術館学芸員 坂森 幹浩

・公開講演

平成14年6月6日

「なぞの西岩瀬湊－海と川による興亡の歴史－」

新湊市博物館館長 保科 齊彦

平成15年5月30日

「城郭から見た戦国後期の岩瀬」

当所研究員・とやま歴史的環境づくり研究会代表 高岡 徹

◎平成17年度～19年度

・メインテーマ：「とやまの鋳物を探る」(17年度9回)

・講師 当所事務局・富山市教委埋蔵文化財センター主査学芸員 小林 高範

当所事務局・富山市教委埋蔵文化財センター主査学芸員 大野 英子

当所事務局・富山市教委埋蔵文化財センター主任学芸員 小黒 智久

・公開講演

平成17年6月2日

「越中と富山城下の鋳物師」

富山県郷土史会常任理事 前田 英雄

## 3. 日本海文化研究所公開講座(平成13年度～現在)

◎平成13年度～14年度(2年間22回)

共通テーマ：「島と半島の日本海文化」

(1) 4月24日

「島と半島の視点から」

当所所属・富山市教委埋蔵文化財センター所長 (2) 5月29日 「島嶼の石造文化－蛇が島から粟島へ－」	藤田富士夫 当所所長 京田 良志	当所研究員・(財)富山市民文化事業団常務理事 (17) 9月3日 「佐渡と越中・能登について」	本庄 清志
(3) 6月29日 「日本古代における島・半島との交流－能登・越中・越後・佐渡国を中心として－」	当所所属・富山市立西部中学校教頭 木本 秀樹	新潟県文化財保護連盟理事 (18) 10月22日 「島と半島の動物相」	藤井 三好
(4) 7月17日 「旧石器時代の島と半島」	当所研究員・魚津歴史民俗博物学芸員 麻柄 一志	当所所属・富山市科学文化センター館長 布村 昇 (19) 11月26日 「安倍島と対馬海流の道」	布村 昇
(5) 8月8日 「日本海の島嶼から見た地域間交流史」	石川県埋蔵文化財センター調査部長 小嶋 芳孝	当所研究員・富山大学人文学部助教授 鈴木 景二 (20) 1月21日 「日本海沿岸の出版文化－近世越中を中心に－」	鈴木 景二
(6) 9月20日 「能登と氷見－民俗の基層－」	当所所属・富山県文化財保護審議会委員 佐伯 安一	当所事務局・富山市葦牛人記念美術館学芸員 坂森 幹浩 (21) 2月18日 「民謡の交流と変遷－まだら節を中心として－」	坂森 幹浩
(7) 10月26日 「島と半島の古地図から見えてくるもの」	富山市壳貝資料館学芸員 兼子 心	富山大学名誉教授 中村 義朗 (22) 3月18日 「能登半島の古墳から見た山野河海」	中村 義朗
(8) 11月26日 「島の地名と言葉から －日本海側の島々、舳倉島・粟島などを例に－」	富山県[立山博物館]学芸課主任 中葉 博文	(財)石川県埋蔵文化財センター調査第4課課長 伊藤 雅文	伊藤 雅文
(9) 12月21日 「島をめぐる祭祀文化－韓國扶安竹幕洞祭祀遺跡について－」	富山市教委埋蔵文化財センター学芸員 堀沢 祐一	◎平成15～16年度（2年間20回） 共通テーマ：「海・潟・川をめぐる日本海文化」	
(10) 1月29日 「佐渡－島の考古学－」	当所事務局・富山市教委埋蔵文化財センター主任学芸員 古川 知明	(1) 4月15日 「日本海沿岸の潟湖からみえてくるもの」	
(11) 2月26日 「能越地方における古墳の展開－前期を中心として－」	富山大学人文学部助教授 高橋 浩二	当所所属・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫 (2) 5月20日 「越中カワサキと占守島（シュムシュ）の鱈場開発」	藤田富士夫
(12) 3月26日 「島と半島の陶磁器文化」	当所社会教育指導員 高木 好美	当所研究員・新潟県加茂市立七谷小学校校長 赤羽 正春 (3) 6月17日 「七尾湾の遺跡と日本海交易」	赤羽 正春
(13) 4月23日 「葦牛人と富山」	葦牛人記念美術館学芸員 木村 昌弘	七尾市教育委員会文化課係長 善端 直 (4) 7月22日 「加賀藩の海運	善端 直
(14) 5月28日 「富山湾の恵み『住の遺産』－その歴史と平面・構造・意匠－」	富山国際職藝学院教授 上野 幸夫	－近世中期以降における越中の小廻船の日本海交易』 水見市編さん室主任学芸員 鈴木 瑞磨 (5) 8月7日 「神通川下流の渡し場」	鈴木 瑞磨
(15) 6月25日 「蛇が島と高岡城の石垣」	当所研究員・富山考古学会副会長 西井 龍儀	新湊市博物館館長 保科 齊彦 (6) 10月28日 「神通川と近世富山の交通－物流の視点から富山町を眺める」	保科 齊彦
(16) 7月30日 「佐渡への誘い」		富山市教育委員会生涯学習課主幹 加藤 達行 (7) 11月18日 「古代の射水川と放生津潟」	加藤 達行
		小矢部市教育委員会 久々 忠義 (8) 12月9日 「埋没林と富山湾」	久々 忠義
		魚津埋没林博物館学芸員 石須 秀知	石須 秀知

(9) 1月20日 「遺跡からみた河川をめぐる中世の物流」 富山市教委埋蔵文化財センター主任学芸員	小林 高範	(4)10月 4日 「立山地獄説話における観音・地蔵」 小松短期大学助教授	由谷 裕哉
(10) 3月23日 「絵図に見る海・川・潟」 新湊市博物館学芸員	野積 正吉	(5)11月 8日 「越と大和の山—考古学から見た岳と野—」 富山大学人文学部教授	黒崎 直
(11) 5月11日 「遺跡からみた中～近世の河川漁」 富山市教委埋蔵文化財センター学芸員	鹿島 昌也	(6)12月 6日 「立山の雪—雪の壁を読む—」 立山カルデラ砂防博物館学芸課長	飯田 肇
(12) 6月 1日 「蟹工船エトロフ丸事件—富山県北前資本の最後の段階」 元茨城大学理学部教授・元富山大学教育学部講師	井本 三夫	(7) 1月24日 「日本海沿岸域における山と海の相関伝承」 高岡高等学校教諭	森 俊
(13) 7月13日 「砂丘と潟—特に新潟砂丘の形成について」 株吉田建設埋蔵文化財事業部	岡本 郁栄	(8) 2月21日 「飛騨の古墳と日本海」 富山市埋蔵文化財センター学芸員	小黒 智久
(14) 8月 3日 「富山湾の海洋環境計測」 富山商船高等専門学校助教授	千葉 元	(9) 3月14日 「富山の里山—みぢかな里山の野生生物をウォッチングー」 福野高等学校教諭	島田 誠治
(15) 10月 5日 「越の国づくり—川そして海—」 当所研究員・富山市教育委員会市民学習センター次長	広田 克昭	※10月19日 記念講演 「アジアにおける女神信仰のはじまり」 中国・赤峰学院歴史学科教授	徐 子峰
(16) 11月 2日 「珠洲焼が語る日本海文化」 国立歴史民俗博物館名誉教授	吉岡 康暢	4. 日本海文化を考えるフォーラム・シンポジウム	
(17) 12月 7日 「雪虫—富山のセッケイカワゲラー」 富山市科学文化センター主幹学芸員	根来 尚	◎平成15年度 9月 6日 フォーラム「島と半島の日本海文化」 (公開講座の2年間の総括)	
(18) 1月11日 「日本海沿岸に沈んでいた陶磁器」 (財)富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所調査第二課長	宮田 進一	特別講演：「海人・海部・海部直の日本海域における活動について」 前京都橘女子大学学長・当所顧問	門脇 祥二
(19) 2月 8日 「鎌倉末期禪僧の氷見湊開設」 当所員・氷見市史編さん室員・富山大学非常勤講師	久保 尚文	フォーラム：司会 当所所長	宗 孝文
(20) 3月15日 「布施水海をめぐる古代史」 氷見市立博物館主査・学芸員	大野 究	コーディネーター 門脇 祥二 パネラー	
◎平成17～18年度（予定）(17年度 9回) 共通テーマ：「山からみた日本海文化」		(財)石川県埋蔵文化財センター調査部長 小嶋 芳孝 当所研究員・富山大学人文学部助教授 鈴木 景二 富山大学人文学部助教授 高橋 浩二 志貴野高等学校教諭 中葉 博文 当所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫	
(1) 6月14日 「古典文学にあらわれた北陸道—海と川と山をめぐって」 成蹊大学教授 浅見 和彦		◎平成16年度 9月11日 ゼミフォーラム「中世岩瀬湊を探る」 (ゼミナール学集会の2年間の中間報告)	
(2) 7月12日 「山と信仰—黒川・立山・武家とのかかわりー」 上市町教育委員会事務局主幹 高慶 孝		ゼミ生による報告：考古学(野田正美)、古地理(宮原利英)、中世石造物(砺波千恵子)、古絵図(加藤加詠子)、古文書(奥村 奨)、伝承(坂野彰男)、海底(経沢信弘)から検証。 アドバイス（小講演）	
(3) 8月23日 「北陸万葉に詠まれた山」 富山市日本海文化研究所所長 武部弥十武		講師： 新湊市博物館館長 齋科 齊彦 元茨城大学理学部教授 井本 三夫 富山大学教育学部教授 深井 甚三 富山商船高等専門学校助教授 千葉 元	

## ◎平成17年度

9月10日 フォーラム「海・潟・川をめぐる日本海文化」

(公開講座の2年間の総括)

特別講演：「海洋・河川・潟湖がむすぶ東部北陸の古墳時代」

新潟市歴史博物館館長・新潟大学名誉教授 甘粕 健

フォーラム：パネラー

新潟県加茂市立七谷小学校長 赤羽 正春

新湊市博物館長 保科 齊彦

七尾市教委員会文化課係長 善端 直

司会

当所所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫

## ●共催事業

・「奈良時代の富山を探る」フォーラム

(平成12年～14年 富山市教育委員会主催)

平成12年9月23日 古代の道と駅

平成13年9月30日 古代北陸の郡と成り立ち

平成14年度10月6日 越中の古代瓦生産と仏教文化の浸透

・国立民俗学博物館「みんぱくサテライトinとやま」シンポジウム  
(国立民族学博物館主催)

平成14年7月20日「人→食べ物→文化」

特別講演：「すしの文化史」

前国立民族学博物館館長 石毛 直道

基調報告：「考古学からみた富山の食文化」

富山市埋蔵文化財センター 安達 志津

「民俗学からみた富山の食文化」

当所所員 佐伯 安一

ミニシンポジウム（鼎談）：

前国立民族学博物館館長 石毛 直道

総合地球環境学研究所教授 秋道 智彌

日本民俗学会会員・新潟県加茂市立七谷小学校長 赤羽 正春

[進行] 当所所員 藤田富士夫

## 5. いろいろを囲むおはなし－日本海文化を聞く－

## ◎平成15年度（年間5回）

(1) 5月10日 海をめぐるお話

「赤いろうそくと人魚」 日本民話の会会員 高木 栄子

(2) 7月5日 山里をめぐるお話

「うりひめ」「くまにたすけられたおとこー北越雪譜よりー」

「ひょうたんに降参したかっぱ」

富山市立図書館司書 早瀬美栄子

(3) 9月27日 川をめぐるお話

「百瀬川の化けイワナ」「正直じいはんの勝ち」

「神通川のかっぱ」 前富山市陶芸館館長 堀 昭子

(4) 11月8日 対岸（韓国）のお話

「青蛙」「ノルブとフンブ」

富山外国語専門学校非常勤講師 曹 銀鴻

(5) 1月10日 雪をめぐるお話

「かさじぞう」「山小屋で出会った雪女」

富山市陶芸館館長 廣田 憲一

雪をつくる（平松式ペットボトル人工雪発生装置による）

富山市立芝園中学校教諭 白石 豊

## ◎平成16年度（年間5回）

(1) 4月17日 川をめぐるお話

「つんぶく達磨」「愛本の大蛇のおはなし」

日本民話の会会員 高木 栄子

(2) 6月19日 山里をめぐるお話

「蛇田のムジナ」「ききみみずきん」

元富山市陶芸館館長 堀 昭子

蛭谷の山のくらし紹介

(3) 9月25日 海をめぐるお話

「海の底の塩ふきうす」「大だこの話」

富山市立図書館 高峯紀美子

(4) 11月13日 対岸（中国）のお話

「十二支の一番目にねずみがいるわけ」「三字教」

じゃんけんのはなし 富山市国際交流センター 銭 輝

(5) 1月8日 雪をめぐるお話「雪娘」

「牛方とやまんば」「座頭の木」

八尾お話の会

## 6.『富山市日本海文化研究所報』の刊行

## ◎第17号 平成8年8月30日刊行

・品運部（品治部）をめぐって

当所所員・金沢大学講師 米沢 康

・越中における武家支配体制の成立

当所所員・富山高等学校教諭 久保 尚文

・研究所創立10周年を迎えて

当所所長 布目 順郎

・日本海文化研究所10年間の活動記録

日本海文化研究所編

## ◎第18号 平成9年3月28日刊行

・百鯛譜－肩帶骨の進化について－

富山理科研究会会長 津田 武美

## ◎第19号 平成9年8月28日刊行

・糸魚川根知谷における人と動植物

当所研究員・富山県日本海ミュージアム推進班主任 森 俊

・越中守藤原朝臣鷹養考

当所研究員・富山県立山博物館 学芸課長 木本 秀樹

## ◎第20号 平成10年2月27日刊行

・石刀鎌文化の石製装身具

当所研究員・魚津市教育委員会学芸員 麻柄 一志

・越中近代のアジア認識（その一）

当所研究員・県日中友好協会理事長 栗三 直隆

・富山県の積雪環境と植物

当所所員・県生物学会会長 長井 真隆

・「オーカン（往還）道」を探る

当所研究員・県自然保護協会常任理事 金子 玲子

- ◎第21号 平成10年9月30日刊行
- ・玉のロードと縄文人から文明のメッセージ  
—日本北陸、東北地方文物考察を終えて—  
遼寧省文物考古研究所 郭 大順
  - ・征夷と越中国  
当所研究員・砺波高校教諭 城岡 明洋
  - ・芦嶋寺宿坊家の廻柵配札活動とその収益の行方  
富山県[立山博物館]主任 福江 充
  - ・越中近代のアジア認識(その二)  
当所研究員・県日中友好協会理事長 栗三 直隆
- ◎第22号 平成11年8月10日刊行
- ・食の外食化に伴う富山県のすし食の変容について  
当所研究員・富山大学名誉教授 中川 眇
  - ・下新川郡宇奈月町内山、音沢における熊の各部利用  
当所研究員・富山県日本海ミュージアム推進班主任 森 俊
- ◎第23号 平成11年6月30日刊行
- ・弥生人衣服の復元  
当所所長 布目 順郎
- ◎第24号 平成12年3月8日
- ・蓮弁周縁月輪の起源について  
当所所長 京田 良志
  - ・ユキッパキはどの程度栄養繁殖を行っているか  
富山市科学文化センター主任学芸員 太田 道人
- ◎第25号 平成12年9月30日
- ・細川管領家領越中国太田保をめぐる諸問題(上)  
当所員・富山大学非常勤講師 久保 尚文
- ◎第26号 平成12年3月22日
- ・江戸時代後期における房総半島の立山信仰  
富山県[立山博物館]主任・学芸員 福江 充
  - ・細川管領家領越中国太田保をめぐる諸問題(下)  
当所員・富山大学非常勤講師 久保 尚文
  - ・秀吉の朝鮮出兵時における「倭城」の実態について  
—第一次踏査報告—  
当所研究員・富山県教育委員会文化財課副主幹 高岡 徹
- ◎第27号 平成13年9月28日
- ・長崎県五島列島出土の石製装飾品  
長崎県小値賀町歴史民俗資料館学芸員 塚原 博
  - ・失われた仏教遺跡  
—アフガニスタン・パーミアンの大仏破壊をめぐって  
当所研究員・富山県教育委員会文化財課副主幹 高岡 徹
  - ・富山県婦負郡山田村居府における穴熊狩り  
当所研究員・高岡高等学校教諭 森 俊
  - ・追悼・大林太良先生と日本海文化  
当所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫
- ◎第28号 平成14年3月31日
- ・韓国の日形火窓石燈に対する新資料  
—ウリ空間文化研究所所長 鄭 明鍋
- ・中国遼寧省の旧石器文化と日本列島  
当所研究員・魚津歴史民俗博物館学芸員 麻柄 一志
- ・北陸と関東  
—弥生時代後期から古墳時代前期の周溝を有する住居の比較—  
当所研究員 駒見住容子
- ・マテオ・リッチの墓を訪れて  
当所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫
- ◎第29号 平成14年10月1日刊行
- ・富山県の庚申信仰  
当所研究員 奥田 淳爾
  - ・魚津の立石考  
越中史壇会会員 紙谷 信雄
- ◎第30号 平成15年3月28日
- ・呪符『急々如律令』をめぐって—その史的意義—  
当所研究員・富山市教育委員会生涯学習課主幹 広田 克昭
  - ・奥飛騨における穴熊狩り—岐阜県吉城郡上宝村本郷の場合—  
当所研究員・高岡高等学校教諭 森 俊
  - ・聞書 富山市北部の伝承—大村街道・豊田城—  
当所研究員 金子 玲子
- ◎第31号 平成15年9月30日
- ・越中布市藩の模索と挫折—幕藩体制社会成立の一過程程—  
新湊市博物館学芸員 松山 充宏
  - ・追悼 京田良志先生と日本海文化  
当所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫
- ◎第32号 平成16年3月27日刊行
- ・海人と海部・海部直の日本海域における活動(講演録)  
当所顧問・前橋女子大学学長 門脇 順二
- ◎第33号 平成16年8月30日刊行
- ・海中から中世岩瀬湊を探る 15年度海底探査報告  
中世岩瀬湊調査研究グループ
  - ・遺跡から見た天文期の神保氏再興過程  
～鷺野城跡と富山市北東部の中世城館跡から～  
富山市教委埋蔵文化財センター学芸員 鹿島 昌也
- ◎第34号 平成17年2月28日刊行
- ・『よみがえる四川文明』展における羌族地区の出土文物と文化内容  
四川省茂県羌族博物館 葵 清
  - ・富山市小出遺跡出土の栗林式土器  
当所研究員・魚津市立図書館長兼市史編纂室長 麻柄 一志  
当所研究員 麻柄 幸子
- ◎第35号 平成17年9月30日刊行
- ・越中万葉の鶴  
当所所長 武部弥十武
  - ・縄文中期タカラガイ形土製品について  
富山市教委埋蔵文化財センター専門学芸員 古川 知明
  - ・追悼 塙原和郎先生と日本海起源論  
当所員・富山市教委埋蔵文化財センター所長 藤田富士夫  
高瀬重雄先生と日本海文化研究

当所所員	久保 尚文	・奥飛騨上宝におけるカモシカ獵 当所研究員・富山県立高岡高等学校教諭 森 俊
◎第36号 平成18年3月31日刊行		・日本海要素と呼ばれる植物 当所研究員・富山県立上市高等学校教諭 佐藤 卓
・海洋・河川・潟湖がむすぶ東部北陸の古墳時代 新潟市歴史博物館館長・新潟大学名誉教授 甘粕 健		◎第19号 平成17年10月10日
・富山港線払い下げ運動の顛末 当所研究員 草 卓人		・中国・西洋における先史時代「女神」の比較研究 中国 赤峰学院歴史学科教授 徐 子峰
・中国唐代の木造建築 当所研究員・富山県日中友好協会副会長 栗三 直隆		翻訳 当所所員 藤田富士夫
7.『富山市日本海文化研究所紀要』の刊行		・芦峰寺日光坊の嫗堂別当及び布橋大灌頂法会開催に関わる勧進活動 一日光坊所蔵の立山御姫尊別当奉加勧進記(弘化3年)を中心に
◎第10号 平成9年3月28日刊行		当所研究員・富山県[立山博物館]主任・学芸員 福江 充
・「高岡魚問屋石川家文書目録」 (平成6~7年度日本海文化研究所委託事業)		8.『日本海文化研究所公開講座記録集』の刊行
富山社会経済史調査会		◎平成16年9月7日刊行 「海・潟・川をめぐる日本海文化」I 平成15年度記録集
代表 当所所員 高瀬 保		◎平成17年9月6日刊行 「海・潟・川をめぐる日本海文化」II 平成16年度記録集
◎第11号 平成10年3月31日刊行		9.『受講生通信』、『日文研NEWS』の刊行
・「草島道調査報告書」 (平成8~9年度日本海文化研究所委託事業)		『受講生通信』
草島道調査研究会		◎平成7年 1号
当所所員・石造美術研究家 京田 良志		◎平成8年 2号~11号
元大島町教育委員長 棚元 理一		◎平成9年 12号~20号
小杉町立小杉中学校教諭 竹脇 久雄		◎平成10年 21号~25号
◎第12号 平成11年11月1日刊行		◎平成11年 26号~30号
・「密田家文書目録」 (平成7年度日本海文化研究所委託事業)		◎平成12年 31号~35号
富山社会経済史調査会		『日文研NEWS』(受講生通信より改名)
代表 当所所員 高瀬 保		◎平成13年度 36号~44号
◎第13号 平成12年3月31日刊行		◎平成14年度 45号~54号
・「十六世紀末の環日本海地域における越後上杉氏の軍事行動」 戦国期における上杉氏の越中守番体制とその展開 —河田長親没後を中心に— 朝鮮半島における上杉景勝の城郭構築		◎平成15年度 55号~64号
—秀吉の朝鮮出兵と上杉渡海軍の軌跡—		◎平成16年度 65号~73号
当所研究員 高岡 徹		◎平成17年度 74号~82号
◎第14号 平成13年3月30日刊行		10. 委託調査事業
・「酒田市飛島・津国屋『御客船控帳』一」		◎平成7年度 「近世越中の商業経済史についての調査II(密田家文書)」
当所所長 京田 良志		・調査機関:富山社会経済史調査会 代表・高瀬 保 他、調査員4名
◎第15号 平成14年1月15日刊行		・調査期間:平成6年9月~8年3月
・「酒田市飛島・津国屋『御客船控帳』二」		・報告書刊行:平成9年3月(『紀要』12号)
当所所長 京田 良志		◎平成8年度 「草島道の調査」
◎第16号 平成14年7月18日刊行		・調査機関:草島道調査研究会 京田 良志、棚元 理一、竹脇 久雄
・「島と半島の日本海文化」I 平成13年度公開講座記録集		・調査期間:平成8年6月~9年3月
◎第17号 平成15年9月3日刊行		・報告書刊行:平成10年3月(『紀要』11号)
・「島と半島の日本海文化」II 平成14年度公開講座記録集		※平成8年度にて終了
◎第18号 平成17年3月10日刊行		
・曇燐の遺跡調査報告		
当所研究員・富山県日中友好協会副会長 栗三 直隆		